

テールアルメ工法盛土材の適用範囲について

大分類		中分類	小分類	細分類			適用
粗粒土 粗粒分 > 50%	礫粒土 礫分 > 砂分	礫 [G] 細粒分 < 15%	きれいな礫 [G] 細粒分 < 5%	$U_c \geq 10$ 、 $1 < U_c \leq \sqrt{U_c}$	粒度のよい礫	(GW)	○
				上記以外	粒度の悪い礫	(GP)	○
			細粒分まじり礫 [G-F] 5% ≤ 細粒分 < 15%	細粒分が主に M	シルトまじり礫	(G-M)	○
				細粒分が主に C	粘土まじり礫	(G-C)	○
		礫質土 { GF } 15% ≤ 細粒分 < 50%	細粒分が主に O	有機質土まじり礫	(G-O)	×	
			細粒分が主に V	火山灰質土まじり礫	(G-V)	○	
			細粒分が主に M	シルト質礫	(GM)	○※	
			細粒分が主に C	粘土質礫	(GC)	○※	
	砂粒土 砂分 ≥ 礫分	砂 [S] 細粒分 < 15%	きれいな砂 [S] 細粒分 < 5%	$U_c \geq 10$ 、 $1 < U_c \leq \sqrt{U_c}$	粒度のよい砂	(SW)	○
				上記以外	粒度の悪い砂	(SP)	○
			細粒分まじり砂 [S-F] 5% ≤ 細粒分 < 15%	細粒分が主に M	シルトまじり砂	(S-M)	○
				細粒分が主に C	粘土まじり砂	(S-C)	○
		砂質土 { SF } 15% ≤ 細粒分 < 50%	細粒分が主に O	有機質土まじり砂	(S-O)	×	
			細粒分が主に V	火山灰質土まじり砂	(S-V)	○	
			細粒分が主に M	シルト質砂	(SM)	○※	
			細粒分が主に C	粘土質砂	(SC)	○※	
			細粒分が主に O	有機質砂	(SO)	×	
			細粒分が主に V	火山媒質砂	(SV)	○※	

盛土材料は、次に示す[A1]材料もしくは[A2]材料(A材料)を用いることを原則とする。

[A1]: 細粒分の含有量が25%以下の土質材料

[A2]: 250mmを超える大粒径のものを含まない硬岩ずり。75mmふるい通過分中の細粒分の含有量が25%以下、かつ、大小粒が適度に混合して締固めのしやすいもの。

また、土質材料のうち、下記に示す[B]材料と[C]材料の範囲にあるものは、適用上の対応策を施した上でこれを用いてもよい。

[B]: 細粒分の含有量が25~35%の土質材料

[C]: 短軸が250mmをこえる大粒径のものを含まない岩石質材料で、75mmふるい通過分中の含有量が25%以下の材料。

[B]材料よりもさらに細粒分の含有量が多いものについては、専門技術者の判断に基づき、固化材を用いた混合改良を行うなどの方策も考えられる。